



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(15) オベリアクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(15) オベリアクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-04-13

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180148>

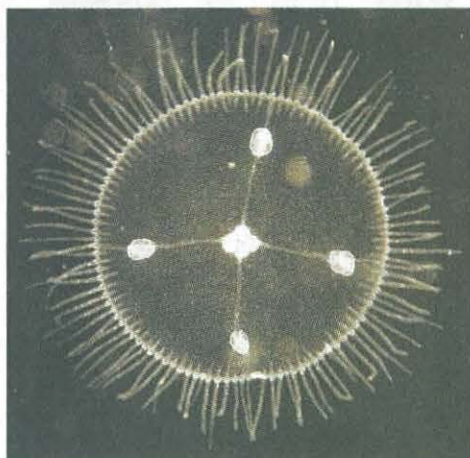
RIGHT:

© 紀伊民報社

2011年(平成23年)4月13日 水曜日 第20563号 (12)

紀 伊 民 報

オベリアクラゲ



円盤型をしたオベリアクラゲ

久保田 信

15



普段よく出合うクラゲといえば、傘型が普通である。しかし、どの世界にも変わり者はいるもので、今回紹介するオベリアクラゲは、仲間とはみな傘型なのに、唯一、円盤

型をしている。

オベリアクラゲは小型のクラゲで、直径が数センチしかない。画像は口側から撮影しており、まるで傘の中心のふくらみが胃袋や口の部分にあたる口柄である。そこから十字形に4本の放射水管が伸び、円周を巡る環状水管と連結している。胃袋で溶かした栄養を管内に生えている繊毛を動かしながら体中へ送る。

傘の縁から120本ほどの触手がまっすぐ伸びる。これで獲物を打ち込んで射止めて胃袋に運んで栄養とする。

獲物をのみ込むときには平たい体もしくかり曲げて一刻も早く獲物をたぐり寄せる。放射管の真ん中より少し後方にあるのが生殖巣である。

り、雌なら卵、雄なら精子がたくさんできる。

オベリアクラゲは世界中どこにでもいて、田辺湾でもプランクトンネットをひけばいつでも採集できる。ポリプは植物のような形をしているが、刺激すると青白く発光することが昔から知られている。オベリアクラゲの生活史は、外国の生物学の教科書などで刺胞(しほう)動物の代表種としてよく紹介されるが、実際は分類が大変難しく「オベリアクラゲの一種」と紹介すべきである。

この仲間について、ポリプからクラゲを飼育して生活史を明らかにして世界で初めて報告したのが筆者である。大学院時代の若かりしころで、このおかげで今でも世界一クラゲの飼育がうまいということになっている。日本にはたくさんのオベリアの種類がいるのだが、生活史が分かっているのはわずか2種しかない。世界的にもこのような研究はなされていない。

(京都大学准教授)